

外国につながりをもつ児童生徒の教育実践の意義

ー日本語指導を担当した教員の学びー

古川 敦子

【要旨】

日本では1990年代以降、定住する外国籍住民の数が増加しており、地域社会や職場においても人々の多文化化、多言語化は今後さらに拡大していくと考えられる。それに伴って日本の小中学校に在籍する、外国につながりをもつ児童生徒数も経年的に増加している。外国籍住民の日本での滞在は長期化、定住化傾向にあり、近年は、日本で生まれ育つ子ども、さらに日本国籍を持つ子どもも増加していることを踏まえると、学級の中に外国につながりを持ち、日本語以外を母語とする児童生徒がいるという状況は、もはや外国人集住地域のみに限ったことではなくなりつつある。

外国につながりをもつ児童生徒の学校への受け入れに関する文部科学省の施策によって、これまでに日本語指導を担当する教員加配、日本語指導者を養成する研修、就学や学習支援の資料の提供などが徐々に進められてきた。平成26年度からは、在籍学級以外の教室で行われる日本語指導が「特別の教育課程」として正式に学校教育課程に位置づけられるようになった。

しかしながら現状は、指導体制に地域格差、学校格差があること、児童生徒の多様性に応じた指導内容や方法が確立されてはいないことなど、その教育環境は十分に整っているとは言えない。特に日本語指導においては、担当する教員の大多数が「日本語指導の初心者」である。十分な準備の期間もないままに担当が始まってしまう場合もあるが、日本語指導をどこまで行うのか、在籍学級での教科指導にどのようにつなげていくのかなど、担当教員に任されている部分も多く、教員の負担感は大きい。さらに日本語の指導以外にも、言語的・文化的背景の相違から生じると思われる多様な問題もあり、各教員が試行錯誤をしながら日々対応しているという現場も少なくない。

そのような中、日本語教育の専門的知識をもつ教員が不足していることが喫緊の課題とされ、その解決のためにさらなる教員研修と教員養成の拡充の必要性が指摘されている。平成29年には日本語教育学会で「外国人児童生徒等を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」が開始され、教員養成系学部等の課程、現職教員研修を通じた体系的なモデルプログラムの開発・試行が目指されている。しかし、一方で、外国につながりをもつ児童生徒の教育は新しい未知の分野であるとはいえ、教員は自身の持つ指導観やこれまで培って

きた知見を活用しながら日々の実践を行っており、その実践から豊かな実践的知識を形成していると考えられる。指導の場の状況や児童生徒、保護者、他の指導者等の関係性の中から教員が自ら形成した知識を明らかにして共有することは、今後、外国につながりをもつ児童生徒の教育や日本語指導の充実に資すると言える。

本研究では、まずは具体的な実践事例と、実践の主体として日々児童生徒に向き合っている教員の視点や思考を調査し、教員がどのような指導観を持ち、それをどのように機能させているか、また実践を通してどのような学びを得ているか、指導観がどのように変容しているかを実証的に明らかにすることを目的とする。そのために本研究では、外国につながりをもつ児童生徒が多く在住する地域の小中学校教員を対象として3つの調査を行った。まず外国につながりをもつ児童生徒の教育を担当する教員を対象に、指導の困難さと児童生徒の受け入れの意義を調査し、教員がどのような視点を持って実践しているか、その傾向を示した。次に日本語指導の実践事例を調査し、日本語指導を経験したことによって、個々の教員に形成された実践的知識と教員の指導観の変容について考察した。そして、教員によって組織された日本語指導の自主研究グループ（日本語教育研究班）の活動と、教員が作成した日本語指導のツールについて記述し、教員が自分達の実践経験に基づいて、指導の在り方や方法を見直し、共同体の中で知見を形成していく過程を明らかにした。

本論文は7章で構成される。第1章では最初に本研究の概要を述べ、研究の背景として今日の外国につながりをもつ児童生徒、および日本語指導に関する課題と、これまで学校教育の日本語指導の分野で論じられている教員の課題について整理した。そして教師の専門性である実践的知識を研究する意義と、本研究の目的を説明した。

第2章では、これまでの外国につながりをもつ児童生徒に対する教育施策の変遷を概観し、日本語指導が必要な児童生徒とその指導の現状、文部科学省による外国につながりをもつ児童生徒への施策、日本語指導の「特別の教育課程」制度、日本語指導に関する教員研修の内容、研修で育成する教員の資質や力量を中心に記述した。

第3章では、まず本研究で取り上げる教師の学びに関する理論的背景と、調査の分析の枠組みについて説明した。本研究が全体として依拠するのは構成主義の学習理論であり、「学習」を「知識を個人内に蓄積すること」ではなく、学習者自身が学習活動に参加し、学習過程において知識を構築していく過程と捉えている。つまり、教師は実践現場や学習者との関係性から学びを形成していくという立場をとる。また、後述する日本語指導の活動とその展開を分析するための枠組みとして、ヴィゴツキーに始まる活動理論を説明し、エンゲストロ

ーム (1999) の活動システム、拡張的学習サイクルのモデル図を示した。そして、教育の理論と実践の関係について、これまでの先行研究を概観し、教師の実践的知識の特徴について記述した。

第4章から第6章は、3つの異なる観点から実施した教員対象の調査の記述である。

第4章では、ある地域の小中学校教員を対象に、外国につながりをもつ児童生徒の教育に関する質問紙調査を行い、記述回答で得られた事例から、指導の困難さと受け入れの意義について、在籍学級で指導する教員と日本語指導担当教員に分けて分析した。在籍学級での指導に関わる教員にとっては、学校生活と、その基盤となる在籍学級での活動への外国人児童生徒の参加度合の低さが課題として捉えられているが、学校への円滑な受け入れ、児童生徒の学習活動への参加、児童生徒同士の交流や関係性の広がり等に関する知見の例も多く挙げられ、指導を経験したことから教員が新しい知見を得て、意義を感じていることが示された。日本語指導担当者からは、日本語教室の運営、日本語の体系的な指導方法、学級担任等を含む他の教員との連携体制の必要性などが課題であり、個別指導の困難の要因として挙げられたが、教員が児童生徒の日本語の習得や、コミュニケーション力の向上をより細かく捉えていることが示された。

第5章では、日本語指導に携わる教員の実践的知識を明らかにするために、3人の教員に対して調査を行った。まず、教職2年目で初めて日本語指導を担当した教員1名を対象に、ある児童の日本語個別指導について、指導計画の作成から実践、見直し、検討の過程を調査して記述した。次に PAC (Personal Attitude Construct: 個人別態度構造) 分析調査 (内藤 2002) を2回実施し、教員個人の日本語指導に関するイメージ構造を比較して、日本語指導の実践経験から得られた学びを分析した。また、日本語指導を複数年経験した、教職20年以上の教員2名に対しても PAC 分析調査を行い、日本語指導の経験を積むことによって得られた実践的知識とその構造を明らかにし、その知識が現在の授業実践にどのように影響しているかについても考察した。

第6章では、外国人集住地域である群馬県伊勢崎市で発足した日本語指導を担当する教員による研究グループ (日本語教育研究班) の5年間の活動と、その活動で作成した3つの指導ツール、児童生徒の日本語の力を把握する共通指標「日本語ステップ」、児童生徒の日本語指導の「個別の指導計画 様式1・2 (伊勢崎版)」、伊勢崎市の初期対応時に使用する「日本語初期指導プログラム」について説明した。そして研究班の教員へのインタビュー調査を質的に分析し、日本語教育研究班の活動を通じて教員が「日本語指導に関する知識・情報の

習得」「視野の広がり・実践への意欲」「互恵的な学びの関係性構築」「指導の組織化・連携の働きかけ」という学びを得たことを示した。また、外国につながりをもつ児童生徒の教育の捉え方の変容を「日本語指導の『固定化』『閉鎖性』の気づき」と「他の児童生徒へのプラスの影響」とまとめ、教員の発話例とともに示した。

第7章は、本研究の総合的考察である。まず、4章から6章までの調査の結果をまとめた。次に第5章で調査した教員1名と第6章で調査をした日本語教育研究班の日本語指導の活動をエンゲストローム(1999)の活動システムに基づいて分析し、解釈を加えて図示した。また、日本語指導活動の過程と教員の学びを拡張的学習サイクルに当てはめて、日本語指導活動がどのように転換していったかを示した。そして、外国につながりをもつ児童生徒への日本語指導から得られる教員の実践的知識について「児童生徒の言語的・文化的背景を捉える視点」「日本語指導の領域の脱固定化」「外国につながりをもつ児童生徒の包摂を前提とした指導への転換」の三点から考察した。本研究の調査から、教員が外国につながりをもつ児童生徒への日本語指導を通して、単なる適応支援や言語的支援という領域を越え、学校全体で多文化・多言語社会、多様な背景を持つ子どもに対応できる指導を目指すという意識へ転換したことが示された。

今後は、このような教員の実践的知識が実際の指導でどのように機能するのか、そして教員の意識の変容が学校の指導体制にどのような転換をもたらすのかについて研究を進め、多言語・多文化化する学校教育の基盤となるような教育実践にも取り組んでいきたい。